

三野中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 1 主体的・対話的な授業づくりを通して、深く学ぼうとする生徒を育成する
- 2 授業のユニバーサルデザイン化により、全ての生徒に「分かりやすい授業」を実践し、基礎・基本的な学力の定着を保障する（三野中スタンダードの実践）

学力向上検討委員会構成

| | |
|----------------------------------|---|
| 学力向上推進員 平尾昌彦 (教務主任) | 委員 辺見俊二校長 北原伸治教頭 川人勝久(3年主任・担任) 仁尾芳人(2年主任) 山口雄三(1年主任) |
|----------------------------------|---|

校長 辺見 俊二

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【取組状況の把握方法】

教員相互の授業参観や年間4回(7・10・12・2月)の教員による報告などから取組状況を把握し、PDCAのサイクルによってプランを実践する

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|---|---|---|---|--|
| ○与えられた課題に対して前向きに取り組み、自分の考えを記述する力が高い。 ○ペア学習やグループ学習に意欲的に取り組み、活発な意見交換などができる。 ●記述したことを口頭で伝えるための表現力が足りない傾向にある。 ●既習事項を用いて新たな課題に取り組む「つながり」を意識できていない生徒が多い。 | ・課題について、構想や予測を立てて実践し、工夫・改善することができる生徒。 ・自分の意見や考えを、既習の内容と関連づけたり学習用語を使ったりして、表現することができる生徒。 ・社会的・科学的事象や自分の経験等について事実を正確に表現することができる生徒。 | ・「三野中スタンダード」①焦点化(目標の明示)・②視覚化③共有化④つまづきの想定と支援等の実践に努め、授業のユニバーサルデザイン化を図る。また、タブレットPCの効果的な活用について協働して研修を進める。 ・授業時間ごとや単元ごとに、学び合いの機会を設けるとともに、学びの確認や振り返りを位置づけた授業展開を行う。 | ・授業の最後に振り返りの時間を確保するように努め、知識の確かな定着を図る。 ・オンラインによる学習環境の確認および整備を進める。 | ・振り返りの時間の確保が課題となった。 ・ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、活発な話し合い活動を通して深い学びを旨とした。 ・論理的に話したり書いたりすることが苦手な生徒や考えを深めることが苦手な生徒に対する手立てに課題が残った。 | ・昨年度に引き続き、授業の振り返りの時間の確保に努め、学習内容の定着を図る。 ・タブレットPCの効果的な活用についての教員研修を実施し、個々の教員のスキルアップを目指す。 ・ペア学習やグループ学習を、生徒の表現力向上や学習の「つながり」「深まり」に結びつくよう、意図的系統的に取り入れる。 |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|--|---|---|---|
| ○学習したことを、生活や生き方につなげようという意識をもって学ぶことができる。 ○自分の意見や考えを、既習の内容と関連づけたり学習用語を使ったりして、表現することができる。 ○聞き手を意識して、よりよい表現方法を工夫しようとしている。 ●複数の資料を関連付けて表現することが苦手な生徒が多い。 ●課題解決に向けての道筋や計画を選択したり評価して決定したりする力が弱い。 | ・社会的・科学的事象や自分の経験等について事実を正確に表現することができる生徒。 ・学習や生活上の課題について、考えるための技法を活用するなどして課題を整理し、解決のための方策を立てることができる生徒。 ・課題について、習得した知識や経験に照らし合わせて考えを形成し、自分の考えや思いを根拠等を明らかにしながら適切に表現することができる生徒。 | ・思考ツールや図解などを活用し、その枠組みで、課題を整理したり、自分の考えを説明したりする学習活動を多く取り入れる。 ・相互授業参観などの研修を実施し、全教職員が深い学びにつながる発問の技能を高める等の具体的な授業改善を進める。 ・「徳島県学力向上確認プリント」などを活用し、資料の読み取りなどに習熟させる。 | ・生徒自身が説明する機会を多く作るようにすることで、思考力や表現力の向上を図る。 ・毎学期、相互授業参観の期間を設ける。 ・生徒自身が学習の見通しができるように単元や授業の最初に学習計画を示す。 | ・生徒はICT機器を使い、工夫を凝らしてスライド等を作成し、上手に発表することができていた。 ・1学期と2学期に教員による相互授業参観の期間を設け、教員同士で「授業感想カード」を交換するなどして、個々の授業力向上を目指すことができた。 ・見通しをもった授業展開ができ、電子黒板やタブレットPCも活用して授業のユニバーサルデザイン化を図ることができた。 | ・根拠を明らかにさせたり、話し合いを深めたりするために、三野中のスタイル(型)を開発したり、その活用を推進したりする。 ・教員による相互授業参観を定期的に行い、校内研修と連動した効果的な運用を目指す。 ・「徳島県学力向上プリント」を活用し、複数の資料を関連付けて読み取り、考察する活動などを取り入れる。 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|--|---|---|--|--|
| ○「三野中学学力向上計画」を活用して、学習計画を立てたり、定期テスト後に自己の取組を振り返ったり、よりよい学習方法を身につけようとする事ができる。 ○朝の読書が定着しており、また、図書室の利用が盛んである。 ○ICT機器を効果的に活用することができる。 ●難しい課題に対し、調べたり試行錯誤したりして答えを導き出そうとする力が弱い。 ●家庭学習を含め、課題を提示されなければ主体に物事に取り組むことができない生徒がいる。 | ・目標をもって学習に粘り強く取り組む生徒。 ・学校の学習内容や社会・科学・人の生き方について知的好奇心を持ち、探究心のある生徒。 ・学習したことを、生活や生き方につなげようという意識をもって学ぶ生徒。 ・ICT機器を効果的に活用できる生徒。 ・既習した内容をうまく応用して課題解決につなげることができる生徒。 | ・定期テストにおいてPDCAサイクルの考え方を取り入れた「三野中学学力向上計画」を記入させ、テスト後、自己の取組を振り返って次につなげるように促す。 ・朝の読書の時間に週に一回程度、新聞を読む日を設け、社会や科学・人の生き方への興味関心を育てる。 ・前年度導入された電子黒板を、タブレットPCと連動させるなど、より効果的な活用を推進するための研修を実施する。 ・質と量のバランスのとれた課題を出し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 | ・学習後に自分にどんな学びや変化があったかを整理してまとめさせることで、次の学習につなげようという意欲をもたせる。 ・生徒向け新聞「あわっこタイムズ」の効果的な活用を図る。 ・電子黒板の積極的な活用を図る。 | ・定期テスト終了後に「三野中学学力向上計画」に振り返りを記入させ、目標の達成度や次回に向けての課題を具体的にイメージさせることができた。 ・毎週月曜の朝読書の時間に、校内一斉で「あわっこタイムズ」を読む時間を確保し、関心をもった記事の感想を書かせる活動ができた。 ・電子黒板とタブレットPCとの連動した活用で、生徒の学力向上を図ることができた。 | ・「三野中学学力向上計画」をファイリングして系統的に活用する方策を確立する。 ・引き続き「あわっこタイムズ」を活用し、社会や科学、人の生き方などについて深く考える機会を提供する。 ・難しい課題に対して、生徒自らが調べたり試行錯誤したりして解決をめざすことができるよう、質と量のバランスの取れた課題を出すよう留意する。 |

令和6年度 学力向上ロードマップ

